

造船協會雜纂附錄 時報

第 15 號

目 次

造船協會創立五十年記念式第五十期年度

通常總會並に秋季講演會記事

造船協會定款及細則中一部改正

9, 10, 11月に於ける各種委員會の活動狀況

新入會員氏名

死亡會員

昭和二十二年十一月廿日發行

郵便物認可

昭和二十三年三月二十五日印刷
本行

蒸汽駆動ポンプ・渦巻タービンポンプ

ウェル式型ポンプ各種・ウォシントン式横置ポンプ各種

株式 田 中 鐵 工 所 工 場一埼玉・千住・本所
本社 東京都墨田區東兩國四ノ七(商工會館内) 大阪營業所一大阪市福島區上副島二ノ五九
電話 深川 1456・1476・1479・1812 電話 土佐堀 841・4164

----- 主 要 製 品 -----

ポンプ・冷凍機・送風機・濾過機

壓縮機・ブロワー・水車

株 式 會 社

荏 原 製 作 所

本 社	神奈川縣川崎市北加瀬五〇	電話 川崎	2611~3
事務所	東京都千代田區丸ノ内丸ビル八階	電話 丸ノ内(23)	221~2
	大阪市北區朝日ビル内	電話 日本橋(24)	5902~4
		電話 福島(45)	3598
出張所	福岡市春吉高砂町五一	電話 西(2)	1198
	札幌市北二條西四丁目	電話 札幌	5780
	仙臺市東一番町九五 千代田組内	電話 仙臺	283

化 學 工 業 用 諸 機 械 裝 置

オートクレーヴ (試験用工業用在庫豊富)	遠心分離機	アルギン酸製造装置
反應釜・濃縮釜	フキルタープレス	硬化油製造装置
眞空蒸發罐	製鹽機械装置	食用油機械装置
眞空乾燥機	飴・葡萄糖装置	合成樹脂製造装置

株 式 會 社

東 京 製 作 所

東京都中央區槇町一ノ五東京製作所ビル

(東京驛八重洲口下車3分)

電話京橋(56)2323・8281・8292・8293

本誌上への廣告は

一手取扱

共 榮 通 信 社

假事務所 東京都品川區西品川四ノ九三二

造船協會創立五十年記念式、第五十
期年度通常總會並に秋季講演會記事

明治 30 年 4 月に造船協會が創立せられてから、昨年は滿 50 年になるので、11 月 8 日午前 9 時半から丸の内日本工業俱樂部講堂に於て創立五十年記念式が行われた。現下の諸種の事情がこの前の創立四十年記念式の時のように華やかに行うことを許さなかつたが文部、運輸兩大臣の祝辭があり、又思い掛けずも米國造船協會々長 E. L. Cochrane 海軍中將からの祝辭を、偶々來朝中であつた同協會評議員の一人である前紐育造船所社長 R. S. Campbell 氏が代讀するなど中々盛大に行われたことは我々會員一同の非常な慶びとするところである。

會は先ず井口會長の式辭に始まり、本會創立者に對する感謝、歴代役員功績、會員の努力に對する謝意を述べ、終りに今後の本會の使命の重大なることを述べて式辭を結んだ。

次に文部大臣(代讀)、運輸大臣(代讀)、米國造船協會々長(代讀)、日本工學會理事長の祝辭朗讀があり、そのあとで、永年役員又は各種委員會委員長として努力せられた方、及び多數の論文を發表せられた次の 27 氏の表彰を行つて意義深き記念式を閉じた。

被表彰者氏名(50音順)

赤崎 繁君 井口 常雄君 出淵 巽君
鶴岡 宗平君 太田 友彌君 越智 誠二君
奥田 克巳君 加藤 弘君 陰山金四郎君
金澤 武君 金子又三郎君 木下 昌雄君
小岩 健君 斯波孝四郎君 重光 茂君
玉井 喬介君 寺澤 一雄君 研野 作一君
徳川 武定君 原田 正道君 湊 一磨君
八代 準君 山縣 昌夫君 山本 開藏君
山本 幸男君 吉識 雅夫君 渡邊 惠弘君

次で午後 1 時から記念講演會に移り次の 3 氏の講演があつた、その詳細は何れ會報で發表する豫定である。

最近 10 年間に於ける造船學術の進歩

井口 常雄君

最近 10 年間に於ける造船技術の進歩

大瀬 進君

高木 淳君

最近の漁船建造狀況

尙、記念講演會のあとで、午後 3 時半から別室で懷舊座談會を催したが、場所の関係上名譽員、功勞員及び現役員と加茂正雄博士に御出席を願つて、湊 一磨君の司會の下に行われた。山本開藏君、斯波孝四郎君、山本幸男君、玉井喬介君、八代準君、常松四郎君、井口常雄君などから色々と思ひ出話やら感想やらが述べられた。

これは幸い速記を取つたので詳細を會報に載せる豫定であるからそれによつて内容を御承知願いたい。座談會の終つたのは日暮の早い冬の日のとつぶり沈んでしまつた 6 時頃であつた。

第五十期年度通常總會は、創立五十年記念式に先立つて 11 月 8 日午前 9 時から第一工學部第三號館第卅一號講義室で行われた。

先づ山縣主事から第五十期年度事務及び事業報告があり、次で加藤主計は第五十期年度收支決算を報告、次に

事務所位置變更、特別員及び准員の廢止を要旨とした定款の一部改正、會費値上による細則の改正の件を附議して可決した。この改正定款及び細則は別項に掲載して置いた。

次にこの新會費によつて編成された第五十期年度收支豫算案を加藤主計から説明して賛成を求め、その成立を見た。

次の議題は評議員選舉であるが、これはその時行われていた各郵便局の怠業により投票用紙の郵送が完全に行われず、當日の投票數が極めて少數であつたため、この開票を 12 月 1 日に延期することにし、その同意を得た。

次に昭和 19 年春季及秋季講演會で發表された論文中、最優秀と認めた次の論文の著者に對し會長から造船協會賞牌を贈呈した。

没水楕圓體及一般水上船舶の造波抵抗に對する淺水影響の理論並に計算

正員 工學士 木下 昌雄君

准員 工學士 乾 崇夫君

木船の縦強度

正員 工學士 原田 正道君

と會員に對する希望を述べて 10 時半通常總會を終つた。

同日 10 時半から研究委員會委員長の事業に對する中間報告を述べ、各委員會への會員からの希望を聞いて、今後の委員會運営の参考とすることとした。報告のあつたのは次の 5 研究委員會である。

- (一) 試験水槽委員會委員長 青山貞一郎君
 - (二) 電気溶接研究委員會委員長 福田烈君
 - (三) 木船研究委員會委員長 吉識 雅夫君
 - (四) 鋼船工作法研究委員會委員長
吉識 雅夫君
 - (五) 漁船研究委員會委員長 松本 良一君
- 秋季講演會は 11 月 9, 10 の兩日に亘つて第一工學部第三號館第卅一號室で何れも 9 時半に開始せられた。次の講演番號 1 から 10 迄を 9 日に、11 から 18 迄を 10 日に行つた。講演の全文を掲載すべき會報の発行は多少おけると思われるので、時報の次號からその概要を載せる積りである。

- 1, 水面滑走體の造波抵抗の理論
丸尾 孟君
- 2, 曳船及トロール漁船等の推進器設計に關する一考察
木下 昌雄君
山内 保文君
- 3, 不均一流に於ける推進器の性能の計算
谷口 中君
- 4, 模型船の自由横揺周期に關する一問題
上野 敬三君

最後に會長の演説があり、在職二ケ年の回顧

- 5, 弾性限をこえた状態に於ける鈹の挫屈理論
渡邊 正紀君
- 6, 直交異方性圓筒の挫屈について
林 毅君
- 7, 水壓と板内内力を受ける補強外板の強度
林 毅君
- 8, 縦横強度部材の相互干渉を考慮せる船殼の立體的強度計算法に就て 栖原 二郎君
- 9, Relaxation Method による船體横強度の計算法
寺澤 一雄君
八木 順吉君
- 10, 木船の縦強度 第三報 原田 正道君
- 11, 矩形平面構造物の振動に就て
山本 善之君
- 12, 任意の分布荷重を有する矩形板の振動
金澤 武君
- 13, 遠洋捕鯨船の設計に對する一考察
高城 清君
- 14, 第六日米丸の船尾骨材の修理に就て
高木 寛君
- 15, S. S. Grand Mesa 海難損傷修理工事に就て 齋木 雅夫君
- 16, 小型貨物船補機動力の交流化に就きて
藤崎 廣君
- 17, 船用蒸気タービンの特殊性能試験
柴田萬壽太郎君
- 18, 燒玉機關の主要寸法について
伊藤 茂君

造船協會定款及細則中一部改正

本會定款及び細則の一部を改正することに、第五十期年度通常總會に於て決議せられ、12 月 17 日附で監督官廳の認可がありましたのでこ

れを昭和 23 年 1 月 1 日から實施することになりました。改正の條文を新舊對照して次に掲げます。

定 款 中 一 部 改 正

改 正 定 款	現 行 定 款
第四條 本會ハ事務所ヲ東京都千代田區丸ノ内一丁目二番地ニ置ク 東京都内ニ於ケル事務所ノ位置ハ主務官廳ノ認可ヲ受ケ理事之ヲ變更スルコトヲ	第四條 本會ハ事務所ヲ東京都麹町區丸ノ内三丁目八番地ニ置ク 東京都内ニ於ケル事務所ノ位置ハ主務官廳ノ認可ヲ受ケ理事之ヲ變更スルコトヲ得

<p>得</p> <p>第五條 會員ヲ分チテ左ノ六種トス</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 名譽員 二 功勞員 三 正員 四 學生員 五 團體員 六 贊成員 <p>第七條 正員ハ左ニ掲グル者トス</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 造船又ハ造機ノ専門者 二 船舶ノ職員又ハ造船造機其他一般海事ニ關スル業務ノ從事者 三 其ノ他評議員會ニ於テ適當ト認ムル者 <p>第九條 削除</p> <p>第十一條 削除</p> <p>第十三條 正員、學生員及團體員（法人ニアラザル者ハ其代表者）タラントスル者ハ入會申込書ヲ提出スルコトヲ要ス</p> <p>前項ニ依ル入會ノ諾否ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム</p>	<p>第五條 會員ヲ分チテ左ノ八種トス</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 名譽員 二 功勞員 三 正員 四 准員 五 學生員 六 團體員 七 特別員 八 贊成員 <p>第七條 正員ハ左ニ掲グル者トス</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 造船又ハ造機ニ關スル學識及經驗ヲ有スル者 二 船舶ノ職員又ハ造船造機其他一般海事ニ關スル業務ニ經驗ヲ有スル者 <p>第九條 准員ハ左ニ掲グル者ニシテ正員タル資格ヲ有セザル者トス</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 造船又ハ造機ノ専門者 二 航海又ハ一般海事ニ關スル業務ノ從事者 <p>第十一條 特別員ハ本會ノ事業ニ關係アル職務ニ從事シ本會ノ主旨ヲ贊助セル者ヨリ理事之ヲ推薦ス</p> <p>第十三條 正員、准員、學生員及團體員（法人ニアラザル者ハ其代表者）タラントスル者ハ入會申込書ヲ提出スルコトヲ要ス</p> <p>前項ニ依ル入會ノ諾否ハ評議員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム</p>
---	--

細 則 中 一 部 改 正

改 正 細 則	現 行 細 則
<p>第卅三條 削除</p> <p>第卅三條ノ二 學生員學籍ヲ去リタルトキハ資格ヲ正員トシテ其旨本人ニ通知ス</p>	<p>第卅三條 准員ニシテ正員タラント欲スル者ハ資格ノ變更ヲ申出ツベシ</p> <p>前項資格ノ變更ハ評議員會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス</p> <p>第卅三條ノ二 學生員學籍ヲ去リタルトキハ資格ヲ准員トシ其旨本人ニ通知ス</p>

第卅五條 正員學生員及團體員ハ入會ノ際
入會金トシテ左ノ金額ヲ本會ニ納
付スベシ

正員 金貳拾圓
學生員 金貳拾圓
團體員 金百圓

第卅六條 正員學生員及團體員ハ會費トシ
テ每一ケ年ニ左ノ金額ヲ本會ニ納
付スベシ

正員 金百貳拾圓
學生員 金六拾圓
團體員
一級 金六千圓
二級 金四千圓
三級 金參千圓
四級 金千圓

會費ハ一ケ年分ヲ二期ニ分テ一月
ヨリ六月迄ノ分ヲ一月ニ七月ヨリ
十二月迄ノ分ヲ七月ニ分納スベシ
但シ一ケ年分ヲ取纏メ一月ニ納付
スルモ妨ゲナシ

第卅七條 正員ニシテ一時ニ金千五百圓ヲ
納付スルトキハ前條ノ會費ヲ要セ
ズ

第五十條 正員ニシテ學生員ノ資格ヲ有ス
ルニ至リタル者ハ學生員ニ變更ス
ルコトヲ得

第五十一條 現在准員タル者ハ本細則ノ施
行ト同時ニ正員トナルモノトス

第卅五條 正員准員學生員及團體員ハ入會
ノ際入會金トシテ左ノ金額ヲ本會
ニ納付スベシ

正員 金拾圓
准員 金拾圓
學生員 金拾圓
團體員 金五拾圓

第卅六條 正員准員學生員及團體員ハ會費
トシテ每一ケ年ニ左ノ金額ヲ本會
ニ納付スベシ

正員 金六拾圓
准員 金四拾圓
學生員 金貳拾四圓
團體員
一級 金參千圓
二級 金貳千圓
三級 金千圓
四級 金參百圓

會費ハ一ケ年分ヲ二期ニ分テ一月
ヨリ六月迄ノ分ヲ一月ニ七月ヨリ
十二月迄ノ分ヲ七月ニ分納スベシ
但シ一ケ年分ヲ取纏メ一月ニ納付
スルモ妨ゲナシ

第卅七條 正員ニシテ一時ニ金七百五十圓
ヲ納付スルトキハ前條ノ會費ヲ要
セズ

第五十條 現在准員ニシテ學生員ノ資格ヲ
有スル者ハ本細則ノ施行ト同時ニ
其資格ヲ學生員ニ變更スルモノト
ス

9, 10, 11 月に於ける各種 委員會の活動狀況

9月1日, 2日, 3日, 鋼船工作法研究委員會
時及場所 午前9時より午後5時迄三菱横濱
造船所に於て

出席者 吉識委員長 古武顧問 松山幹事
藤田 後藤 高岡 狩野 笹山 長谷

川代 古賀代 秋友代 淺沼代 江田
代 福岡代各委員

議 事

1, 工作法の改良に關する件

(1) 酸水素加熱瓦斯切斷實驗記錄に就
て三菱横濱青木君より説明あり。酸水
素と酸「アセチリン」との作業及び經
費に就ての比較對照の結果, 經費に就

ては殆ど違いはないが、切斷速度がアセチリンに比し稍劣る。カーバイト不足の補充としては良好である。一般には水素の獲得に難點あり。

(2) 加熱爐に木材を混焼した場合に就て長崎馬場君より説明あり。石炭のみより木屑を入れた場合の方が爐温度の上昇時間も早く、温度も高い。唯焚く回数が多くなる。又廣島後藤君より松根利用の説明もあつた。尙川崎造船で使用中の木材鋸爐に就て次回に發表して貰うことにした。

(3) 苛性ソーダの回収に就て三菱神戸で研究した分をも發表して貰うことにした。

2, 溶接工作法基準作製に關して溶接研究会からの申出に就き委員長から提案があつた。結局次の通りに扱うこととする。工作法基準は工作法研究会に於て作成するが、一應溶接工作法の検討をした上で溶接研究会と共同で研究を行い、最後に決定すること、その爲溶接工作法基準の研究はニウマティック關係のものより早くすることとし、次回に案を提出することとした。

3, 工作法基準に關する件

(1) 水壓工作法基準について川崎青野君より説明あり、最終審議を終了した

(2) 撓鐵工作法基準に就て播磨木藤君より説明あり第一回審議を行つた。

(イ) 撓鐵の板加工に於て地爐と丸焼と何れが良いかに就いて大いに討論あり、工數、資材の面より次の機会に再検討すること。

(ロ) 度取機のスケッチ(川崎)並に地爐(長崎)及銅板用反射爐「スケッチ」を取入れること。

(ハ) 撓鐵工作法は各造船所に依り種々異なる點あり、横濱より板の絞り要領を、長崎より「ネジレ」板の加工法と板丸焼加工法を送附願う

こと。

(3) 鍛冶工作法基準に就て播磨木藤君から説明あり、第一回審議を行つた。一括して撓鐵鍛冶工作法とし、撓鐵工作法の一章として纏めることとした。

(4) 取付工作法基準につき長崎馬場君より説明あり、次回に續行することとなつた。

(5) 用語に就て、日本語として廣く認められている外來語は片假名で書き、其他の外國語は原語で書くこと。

4, 前回議題となつた外板の縦横曲りの程度に應じ其の加工をどの作業で行うが有利なるか研究のため、各造船所より 135 噸漁船の資料を集めて討議した。

(1) 造船所に依り撓鐵にて絞りを行ひ鋼板數に非常に差のあること。

(2) 小なる縦曲りのものをローラー曲げ仕上げのみにて現場に出す場合と、更に撓鐵で絞りを行つて現場に出す場合と外業工數に影響する程度の差異が現われていないこと。

(3) 従つて丁寧な撓鐵加工が工數的に見て有利であることは斷定出來ないこと。寧ろローラー仕上げのみで組立てた方が工數的には有利かも知れぬこと

(4) 十分な撓鐵加工を行えば立派な船が出来ること。

(5) 縦横曲りどの程度迄撓鐵加工を行うがよいかは二つの極端な加工例に依り圖にプロットしてカーブを描き次回更に検討すること。

5, 委員會年次報告の件

今迄に一應の結論に到達した項目に就ては、造船協會々長に委員長より報告するに付、各項目の擔當委員に於て次回に取纏め提出されたい旨委員長から要望があつた。

3 日(水) 船舶工學術語改訂委員會第 13 回會合

時及場所 午後1時半より4時半迄協會事務所に於て

出席者 湊委員長 井關代 板部、柳原、重川、鈴木、瀧山、南波、松山各委員 出淵、佐藤各幹事

議 事

- 1, 前回懸案とした諸語と全科技連案Eの部との審議を終つた。

4 日 (木) 電気溶接研究委員會第三分科會 第15 回會合

時及場所 午後1時半より5時迄協會事務所に於て

出席者 福田委員長、會田主査、今井、山口 清水、御鳴、島田各委員

議 事

- 1, 前回よりの「溶接に関する一般注意事項」を引續き審議し、訂正又は補筆を行つた。

8 日 (月) 造船技術教育制度調査委員會第8回會合

時及場所 午後2時半より5時迄、日本工業俱樂部に於て。

出席者 山縣委員長、井口顧問、伊藤、小野 小野木、加藤(弘) 澤村、瀧山、常松 村田代、山中各委員、出淵、佐藤、土田各幹事

議 事

- 1, 資料として次のものを配布し、幹事から説明を行つた。

資料第 25 號 新學制と職業教育

〃 第 26 號 今後毎年學校卒業生採用見込數及び専門教育の學制に對しての希望

〃 第 27 號 各會社自體の爲に設立された専門教育機關

〃 第 28 號 各會社に於ける科學技術研究機關

〃 第 29 號 船舶綜合技術研究所要員數調

- 2, 意見書受領の件

山口増人、渡邊惠弘兩君から造船技術教育に関する意見書を送附して來た。山口君の分は資料第 25 號として本日配布。渡邊君の分は次回に配付する豫定。

- 3, 造船所等に於ける大學造船科卒業生採用數の件

種々の資料につき検討した結果、造船所 50 名、官廳船會社等を併せて 50 名、大體毎年採用數を 100 名と見ればよいという結論に達した。

- 4, 漁船用機關新造修理要員數の件

伊藤委員から資料第 15 號につき説明があつた。この表の技術職員は全部機械科卒業生と考えてよい。

- 5, 其他の方面に於ける造船技術者要員數の件

修繕關係、漁船關係、機帆船關係、監督官廳關係及び検査關係要員數を引續き調査することを申合せた。

- 6, 「造船技術の振興方策」建議の件

本委員會で審議した本件は十一團體の連名で8月5日附を以て關係大臣、兩院議長宛建議された旨委員長から報告があつた。

11 日 (木) 電気溶接研究委員會第 16 回會合

時及場所 午後1時半より5時迄協會事務所に於て

出席者 福田委員長、會田主査、今井、遠山 御鳴、山口、木下、島田各委員

議 事

- 1, 遠山委員から隔壁構造圖面提出あり各委員に配布した。

2, 御鳴委員執筆の「溶接棒と溶接工」を審議した。本項目は前に一應附議したが種々論議があつて纏らず、今回同委員から訂正再提出があつたものである。

- 3, 佐藤正彦君から執筆要綱を次回迄に配布する豫定の旨申出があつた。

15 日 (月) 電気溶接研究委員会第四分科會第
12 回會合

時及場所 午後 1 時半より 4 時迄協會事務所
に於て

出席者 福田委員長, 榊原主査, 福田, 今井
御鳴, 増淵各委員

議 事

- 1, 増淵委員から溶接船損傷記録表の配布あり, 主として損傷箇所の検討を行った次回にも引き続き検討を続ける予定である
- 2, 次回迄に前項に附随した圖面を用意して貰うよう申合せた。

16 日 (火) 木船研究委員会第 14 回會合

時及場所 午後 2 時より 4 時半迄協會事務所
に於て

出席者 吉識委員長, 原田, 吉田, 小山, 市
川各委員, 金子, 竹鼻各幹事

議 事

- 1, 接手の固着釘にかゝる力
「單純曲げを受ける木材接手」に就て竹鼻幹事から説明あり。原田委員の釘穴變形, 釘の撓み等の資料を参考とし, 更に検討の上理工學研究所で行う實驗の結果と併せて次回に報告することになった。
- 2, 漁船協會よりの依頼事項
吉田委員から「鳩尾型接手の一例」に就て説明あり, 市川委員の計算及び實驗の参考として貰うことになった。
- 3, 年次報告, 中間経過報告の件
現在迄に討議の議題中, 中間経過報告をすべきもの, 題目及び擔當者を定めた。

17 日 (水) 船舶工學術語改訂委員会第 14 回
會合

時及場所 午前 10 時30分より午後 2 時30分
迄協會事務所に於て

出席者 湊委員長, 井關代, 池田, 板部, 榊
原, 鈴木, 瀧山, 南波, 松山各委員
出淵, 佐藤各幹事

議 事

1, 佐藤幹事から, 機械部門打合會は大體一回 500 語を標準として審議を進めつゝあるので, 本委員会も更に議事促進の要ある旨報告があつた。

2, 前回懸案となつた語及び全科技連案 F の部の審議を終了した。

17 日 (水) 定期評議員會

時及場所 午後 2 時半より 6 時半迄日本工業
俱樂部に於て

出席者 井口會長, 山縣, 吉識, 常松各理事
福田, 朝永各監事, 岩井, 出淵, 小野木
太田, 榊原, 鈴木, 南波各評議員

議 事

- 1, 7 月及 8 月理事會決議事項を追認した
- 2, 創立五十年記念式, 第五十期年度通常總會及び秋季講演會開催の件及びその日程を決議した。
- 3, 記念式に於ける表彰者選定標準及び被表彰者の選衡を行つた。
- 4, 記念式に於ける祝辭交渉先, 招待狀發送先, 懷舊座談會列席者等を決定した。
- 5, 通常總會に附議すべき定款及び細則中一部改正の件を審議し原案を作製した。
- 6, 通常總會に於て改選せらるべき評議員候補者の選衡を行つた。
- 7, 第五十期年度決算, 各種研究委員会委員長報告及び講演會發表演論文審査報告等を審議するため 10 月 4 日に臨時評議員會を開催する件を決議した。

報 告

- 1, 文部省から本協會木船研究委員會の「木船の増強法」に對し六萬圓, 電気溶接研究委員會の「漁船の溶接」に對し二萬圓, 科學試驗研究費を交附する旨通知があつた。
- 2, 長崎地方委員武藤美一君轉出につき後任として肥塚與四郎君に委嘱し承諾を得た。
- 3, 鋼船工作法研究委員会委員移動の件。
三井玉野製作所山田, 博君辭職につき,

笹山徳太郎君に後任を委嘱した。

22 日 (月) 電気溶接研究委員会第三分科第 17

回會合

時及場所 午後 1 時半より 4 時迄協會事務所
に於て

出席者 會田主査, 今井, 御鳴, 山口, 木下
島田各委員

議 事

1, 「漁船の溶接」出版促進の爲残余の下
記原稿脱稿期日の取極を行つた。

- (1) 外板, 釣臺, デッキハウス, 舵,
パーキール船工作法の再審議 (10
月 2 日)
- (2) 隔壁及上甲板 (10 月 9 日)
- (3) 検査法及び鑄裝品取付要領 (10 月
16 日)
- (4) 治具及船體建造順序 (10 月 23 日)
- (5) 總括 (10 月 30 日)

22 日 (月) 造船技術教育制度刷新委員会

時及場所 午後 2 時半より 4 時半迄日本工業
俱樂部に於て

出席者 山縣委員長, 伊藤, 小野, 小野木,
澤村, 瀧山各委員, 出淵, 佐藤, 土田
各幹事

議 事

- 1, 前回到引續き造船關係技術者要員數を
検討し, 木造船及木造漁船關係要員數
と行政官廳要員數とを除き他は一先ず終
了した。
- 2, 豫定議題中次の未着手のものに就ては
その着手順序を井口顧問の意見に従つて
決めることに申合せた。

30 日 (火) 電気溶接研究委員会第一分科會第
11 回會合

時及場所 午後 1 時半より 4 時迄協會事務所
に於て

出席者 福田委員長, 矢ヶ崎主査, 赤崎, 多
田各委員

議 事

- 1, 内應力と疲労強度との關係調査に關す
る實驗は木原委員關與のもとに施行中で
ある旨報告があつた。
- 2, 文献調査は取選中であつて次回に三論
文につき埴田委員から説明がある豫定で
ある。

10 月 1 日 (水) 船舶工學術語改訂委員會第 15
回會合

時及場所 午後 1 時より 4 時半迄協會事務所
に於て

出席者 湊委員長, 井關代, 板部, 榊原, 重
川, 鈴木, 瀧山, 南波, 松山各委員,
出淵, 佐藤各幹事

議 事

前回懸案となつた語語と, 全科技連案 G
の部の審議を終つた。

2 日 (木) 電気溶接研究委員会第三分科會第
18 回會合

時及場所 午後 1 時半より 5 時迄協會事務所
に於て

出席者 福田委員長, 會田主査, 今井, 御鳴
木下, 島田, 遠山代各委員

議 事

- 1, 御鳴委員執筆の「溶接棒と溶接工」の
未完了部分を検討した。尙委員長から國
家として統一的な檢定機關の出現を希望
する旨を本文の何れかに挿入するよう申
出があつた。
- 2, 遠山委員執筆の隔壁の部を附議した,
主要な事項は次の通りである。

- (1) 横壁ブロックの構成法に於て順序
變更の件
- (2) ステフナー兩端部の溶接は必ず廻
しおくことの注意を附加すること
- (3) 縦壁付ストリップの溶接に際し片
面連續溶接はコーキング面を施行
するため水張區劃を檢討の上取決

めること。

- (4) 隔壁現場取付順序を訂正すること
- (5) 舷側横壁と外板との取合溶接は上甲板の位置確定迄保留すること

3 日 (金) 電気溶接研究委員会第四分科第 13 回會合

時及場所 午後 1 時半より 4 時迄協會事務所に於て

出席者 福田委員長, 榊原主査, 福田, 今井松本, 島田, 増淵, 御鳴各委員

議 事

- 1, 増淵委員作成の全溶接船損傷箇所記入圖面について説明あり, 損傷は損傷全溶接船約 80 隻の中 60 隻迄は upper deck の cargo hatch corner 若くはその附近に集中している事が明かとなつた。(内譯 No. 4 hatch 前角 corner 20 隻, 同 hatch 後角 corner 20 隻, No. 5 hatch corner 16 隻) 尙全溶接船損傷箇所記入圖面は次回配付の豫定。
- 2, 次回は松本委員配付の資料について同委員から説明を聴取することに申合せた

4 日 (土) 臨時評議員會

時及場所 午後 1 時より 5 時半迄日本工業俱樂部に於て

出席者 井口會長, 山縣, 加藤, 吉識, 常松各理事, 福田, 朝永各監事, 赤崎, 出淵, 菅, 榊原, 南波, 松本, 横山, 渡邊(賢), 渡邊(恵) 各評議員

議 事

- 1, 入退會者承認の件 (別項参照)
- 2, 第五十期年度事務及び事業報告書の審議を行い, 總會に於て主事から報告することとなつた。
- 3, 第五十期年度決算報告書を審議し, 總會に於て主計から報告することとなつた。尙基本金中信託預金の第二封鎖を第一封鎖預金へ變更すべき金額の増額方について更に努力することとなつた。

4, 第五十一期年度收支豫算案を再審議し, 總會に附議することを申合せた。

5, 秋季講演會発表論文 18 篇を決定した。

6, 會報第 75 號掲載豫定論文中, 11 月の總會で授與すべき論文を決定した。

7, 評議員候補者を取纏め, 今度の改選の参考資料として各正員に送附することとなつた。

8, 論文の發表前審査の方法に就ては次期役員會で決定して貰うことに申合せた。尙この際論文選定の規準を定めることとし次期役員へ引續ぐこととなつた。

9, 春秋二回の講演會では無理があるので年四回位開催することとし, 地方でも開催しては如何との提案があり, 次期役員に決めて貰う事に申合せた。

9 日 (木) 電気溶接研究委員会第三分科會第 19 回會合

時及場所 午前 10 時より午後 2 時迄協會事務所に於て

出席者 福田委員長, 會田主査, 今井, 御鳴山口, 木下, 島田, 遠山代各委員

議 事

1, 上甲板ブロック工作法を検討した。要點は次の通である。

- (1) 鋼板面合溶接の順序を變更し, butt を先ず溶接し然る後 seam を溶接すること。
- (2) 横壁と上甲板取合ストリップは 75 mm 幅を 100mm に訂正すること (穿孔及鉸接容易のため)
- (3) 第二第三ブロック及第三第四ブロックの取合は溶接とする。
- (4) (3) のブロック取合溶接は開先角度を 60°にとる。

2, 以上の上甲板ブロック工作法検討の結果前回検討した隔壁に對し穿孔要領を記入する必要がある。

3, 溶接部検査法につき討議した。

13 日 (月) 造船技術教育制度調査委員會第 10 回會合

時及場所 午後 2 時半より 4 時迄日本工業俱樂部に於て

出席者 山縣委員長, 伊藤, 小野, 小野木, 澤村各委員, 出淵, 佐藤, 土田各幹事

議 事

- 1, 船用機關科設置の件につき審議した結果, 大學に於ては獨立した學科とせず單に講座を設ける程度とし, 高等學校中特定の所には學科として設けて欲しいといふ結論に達した。
- 2, 造船所に於ける自家養成機關は大造船所に於ては存続の必要ありと思う。
- 3, 技術者要員數中, 木造船と木造漁船とを一括して「木造船」とし, 造船は大學卒 24, 高校卒 100, 造機なし合計 124 としない旨高木, 伊藤兩委員から通知があつた。

15 日 (水) 船舶工學術語改訂委員會第 16 回會合

時及場所 午後 1 時より 5 時迄協會事務所に於て

出席者 湊委員長, 池田代, 板部, 梶原, 重川, 鈴木, 瀧山, 南波, 松山各委員, 佐藤幹事

議 事

前回の懸案事項と全科技運案 H の部の審議を終つた。

16 日 (木) 電氣熔接研究委員會第三分科第 20 回會合

時及場所 午後 1 時半より 4 時迄協會事務所に於て

出席者 今井, 御鳴, 山口, 木下, 遠山, 島田各委員

議 事

木下委員提出の「船體熔接組立治具」に就て審議し, 締付用治具の項に於ては我國で從來使用せるものを概ね列挙し更に

外國に於けるものも文献等から選擇してその總括的記事が記載してあるが, 特に漁船工作法に直接役立つものを強調して書くことゝなつた。

20 日 (月) 電氣熔接研究委員會第四分科會第 14 回會合

時及場所 午後 1 時 30 分より 5 時迄協會事務所に於て

出席者 福田委員長, 今井, 松本, 吉識, 島田, 御鳴各委員

議 事

- 1, 前回の申合せに従い松本委員から熔接船の損傷龜裂の統計について説明があつた。即ち損傷總件數は初期建造のものに比べてその後のものは重大なる損傷龜裂の總件數は減少したが, 小損傷龜裂の總件數は寧ろ増加している。又靜水中停止状態で重大なる破壊を生じた船の計算應力は大了ものではなかつた事も明かとなり, 龜裂發生と氣温水温季節等との關係もグラフにして説明があつた。
- 2, 熔接船の損傷龜裂が hatch corner 附近に多いために圖面につき調査したところ, 初期建造のものは hatch corner の deck opening が角であつたがその後は丸味をつけることに改められていることが明かとなつた。
- 3, 次回は松本, 島田兩委員から引續き熔接船の損傷龜裂について説明をきゝ之を檢討することを申合せた。

21 日 (火) 木船研究委員會第 15 回會合

時及場所 午後 2 時より 4 時半迄協會事務所に於て

出席者 吉識委員長, 原田, 小山, 市川, 渡邊代, 吉田代, 各委員, 竹鼻幹事

議 事

- 1, 木船の橫強度, 根曲材に代るべき彎曲部材, 船體撓測定法等に關し各擔當委員から中間經過報告があつた。

2, 委員長から9月30日附で年次報告を
會長に提出した旨報告があつた。

23日(木) 電気溶接研究委員會第三分科會第
21回會合

時及場所 午後1時半より5時迄協會事務所
に於て

出席者 福田委員長, 會田主査, 御鳴, 山口
遠山, 島田各委員

議 事

山口委員提出の「溶接部検査」及び「艦
裝品取付上の注意」を審議し、「溶接部検査」
の末尾に「検査として最も重要なこと
は技術に精通せる者が溶接作業中適當
に監督検査することである」旨を附記す
ること、「艦裝品取付上の注意」の項に於
ては往々にして溶接の信用を失墜する原
因を作ることがあるから特に入念確實な
溶接を施行する旨附記すること, 並に
「木甲板取付用ボルト」につき其の取付
方法を記載することとなつた。

24, 25, 26日 鋼船工作法研究委員會第8回會
合

時及場所 午前8時半より午後5時迄浦賀造
船所に於て

出席者 吉識委員長, 松山幹事, 秋友代, 淺
沼代, 江田代, 狩野, 古賀代, 笹山,
高岡, 長谷川代, 福田代, 藤田代, 各
委員

議 事

1, 工作法基準に関する件

(1) 取付工作法基準につき審議を行い
下記の事項に就き資料を持寄り研
究することとした。

(イ) 溶接に依る收縮量, 變形量及逆
歪量等

(ロ) 溶接ブロックの天地回数, マー
ネング方法, 治具の合せ方等

(ハ) 隔壁, 外板等の溶接に於て本溶
接面と防護材取付面との關係,

溶接の順序等

(ニ) ブロックの現場取付をなす際,
バットを溶接として, シームを
どうするか, シームが銲及び溶
接の各場合につきその取付方法

(ホ) 大量生産でない場合, 曲りや振
れのある場所をブロック組立と
することの利害

(2) 溶接工作法規準

溶接工作法規準の目次を決定し
た。即ち, 一般事項, 溶接設備並器
具變形量残留應力及歪防止法, 溶
接組立取付施工法, 検査試験及技
術鑑定, 災害防止の6節とする。

2, 機械器具及工作法改良に関する件

(1) 木材燃焼銲燒爐の件

川崎小笠原君から川崎で試製し使
用中の木材燃焼銲燒爐に關し説明
があつた。即ち燃料としては全部
木のみで可, 燒過ぎのないこと,
銲を見失うことのないこと, 手待
ち中にも火が消えぬこと, 焚始め
より7分間で温度が1100°Cに上
昇すること, 1100°Cに上昇後
銲ならば1分・1"銲で5分で所要
温度に燒けること, 一回に8~10
本入れ得ること等の説明があつた

(2) 135」漁船外板の機鐵加工程度の
研究

これは更に横濱及び播磨で検討の
上討議することとした。

(3) "Automatic fastener for ship
assembly" に就て

本文獻につき横濱宮田君から説明
あり種々討議を行つた。

3, 委員長報告に関する件

造船協會通常總會に於ける委員長報告の
内容について協議を行つた。

27日(月) 臨時理事會

時及場所 午後3時半より5時迄東京大學第

一工學部船舶工學科會議室に於て

出席者 山縣, 加藤, 吉識, 常松各理事, 出淵事務長

議 事

- 1, Campbell 及 Pierce 兩氏を招き臨時講演會を開催する件を協議し, 11月12日午後依頼する様手配することとなつた。
- 2, 中央郵便局意業の爲通常總會及記念式典の通知が未だ局の手を離れていない模様なのでこれが対策につき協議した。

28 日 (火) 電氣熔接研究委員會第一分科會第 12 回會合

時及場所 午後 1 時半より 4 時迄協會事務所に於て

出席者 福田委員長, 矢ヶ崎主査, 埴田, 赤崎, 吉識各委員

議 事

電氣熔接研究委員會總會に於て報告すべき本分科會の陳述事項を取纏めた。

29 日 (水) 船舶工學術語改訂委員會第 17 回會合

時及場所 午後 1 時 30 分より 4 時 30 分迄協會事務所に於て

出席者 委委員長, 板部, 鈴木, 南波, 濱田, 松山各委員, 出淵, 佐藤各幹事

議 事

- 1, 前回懸案となつた諸語と, 全科技連案 I. J. K の部の審議を終つた。
- 2, 佐藤幹事から用語制定に關する文部省の方針について報告があつた。概要は次の通りである。
 - (1) 來年度豫算として 2,760 萬圓要求している。
 - (2) 來年度は理工農醫で 33 部會を作り審議を進め年度一杯で終了させたい考である。
 - (3) 來年度は船舶部門は獨立させる。
 - (4) 審議を要する語數は大體 60 萬語と考えられるからこれを年度一杯

に片付けるには相當促進の要がある。

- (5) 最近 10 年間の米國の刊行物, 本邦の刊行物及各學會の術語集をも併せ参照して完璧を期したい。
- (6) 審議結果は英和, 和英の外, 在來語と新制定語との對照も行いたい。

31 日 (金) 電氣熔接研究委員會第五回總會
時及場所 午後 1 時 30 分より 4 時迄協會事務所に於て

出席者 福田委員長, 埴田幹事, 矢ヶ崎, 吉識, 御鳴, 會田, 島田各委員

議 事

1, 第一分科會報告

- (1) 文献蒐集, 文献の一部を發表討論を行つた。將來は資料として提出の豫定である。
- (2) 實驗, 試驗片の製作を終り試験を施行中である。

2, 第二分科會報告

木原委員の手許で整理中であるが多忙の爲進捗しないので近く打開策を立てる豫定である。

3, 第三分科會報告

漁船熔接工作法の編纂を計畫している。來春 3 月に出版し得るよう 11 月中に脱稿の豫定で目下進行中である。

4, 第四分科會報告

熔接船の損傷に關する資料が二, 三入手したのでそれについて検討した結果, 熔接船に相當多數の損傷龜裂が發生していたことが分つた。又損傷箇所についても研究が行われた。その原因等について引續き研究中である。軟鋼の低溫脆性, 損傷時の氣温等と損傷との關係についても同じく研究中である。

熔接船と造船規程に準據した鈹接船との強度の比較に關しては前總會以後進捗していない。

5, 熔接工作法については鋼船工作法研究

委員会と合同で研究することになった。

11月4日(火) 電気溶接研究委員会第三分科
第22回會合

時及場所 午後1時半より5時迄協會事務所
に於て

出席者 福田委員長, 會田主査, 御鳴, 今井
遼山, 山口, 島田各委員

議事

山口委員提出の「溶接に関する一般注意
事項に就き一部再審議を行った。

5日(水) 船舶工學術語改訂委員会第18回
會合

時及場所 午後1時半より5時半迄協會事務
所に於て

出席者 湊委員長, 井關代, 板部, 鈴木, 南
波, 松山各委員, 出淵, 佐藤各幹事

議事

全科技連案L及びMの一部の審議を行つ
た。

11日(火) 試験水槽委員会第31回會合

時及場所 午前11時より午後4時迄協會事
務所に於て

出席者 研野客員, 菅, 木下, 志波, 谷口,
土田各委員, 乾補助委員

講演

1, 第一日新丸の航海成績の解析及び之が
應用としての最も經濟的な航法に関する
考察 谷口委員

昨冬南水洋に出漁した捕鯨母船第一日新
丸の往航及復航中の毎日の詳細な航海記
録を, 本船に同乗した三菱長崎造船所の
保證技師の手記から整理して轉載しこれ
を解析して次の結論を得た。

「或航路を或與えられた時間で航海する
場合, 最も經濟的な航法は天候の階級に
無關係に, 恒に馬力一定で航海する事だ
である」

尙航海全期間の sea margin の算例平均

値が判つている場合にはその所要の一定
馬力の大き及び燃料全消費量を計算する
ことが出来る。

2, スパイラル推進器の單獨試験成績

土田委員

スパイラル推進器の模型による單獨試験
の結果及びその解析結果を述べ slip の
大きい状態下に於てはスパイラル推進器
もその効率は左程悪くないことを明かに
した。即ちその最大効率は次の通りであ
る。

ピッチ比 0.6 0.8 1.0

最大効率 0.475 0.570 0.575

3, 推力が負値を示すような状態に於ける
推進量の性能に就て 土田委員

船舶試験所 B₃ 50系列なる 3翼推進器の
模型に就て, 回轉を一定にして推力が負
値を示す様な状態まで實驗を行つた場合
の資料を發表した。

議事

1, 本日の講演1の成果に鑑み, 更に南水
洋に出漁する捕鯨船の航海記録を採るこ
とを依頼する事に申合せた。

2, 小型船の performance の悪い原因の
検討を行つた。

3, 試運轉成績と模型試験成績との不一致
の原因の検討をつづけた。

13日(水) 漁船研究委員会第12回會合

時及場所 午後2時より4時迄協會事務所
に於て

出席者 松本委員長, 元良幹事, 木村, 木下
中村各委員, 出淵事務長

議事

1, 木下委員からトロール船の推進器回轉
數につき研究した結果の説明があつた。
内容の詳細は秋季講演會で發表されたの
で, こゝには省略する。

17日(月) 電気溶接研究委員会第四分科第
15回會合

時及場所 午後1時半より5時迄協会事務所
に於て

出席者 福田委員長, 榊原主査, 福田, 今井
松本, 吉識, 島田, 會田, 御鳴各委員
議 事

1. 熔接船の補強後の縦強度の計算結果について今井委員から説明があつた。
2. 松本委員から熔接船の損傷に関する説明があつた。
3. 鐵研第七部濱野和夫氏を本分科會委員を委嘱する件を申合せた。

18日(木) 木船研究委員會第16回會合

時及場所 午後3時より4時半迄協会事務所
に於て

出席者 吉識委員長, 小山, 武原, 市川各委員,
竹鼻幹事

議 事

1. 單純曲げを受ける木材接手の有効率について竹鼻幹事から説明あり, 討議の結果適當な材料で實驗を行うこととなつた

19日(金) 船舶工學術語改訂委員會第19回
會合

時及場所 午後1時半より3時迄

出席者 池田代, 板部, 鈴木, 松山各委員,
出淵, 佐藤各幹事

議 事

特許標準局の希望により, 送附して來た
現場用語原案の審議を行つた。

24日(月) 電氣熔接研究委員會第三分科第
23回會合

時及場所 午後1時半より4時迄協会事務所
に於て

出席者 福田委員長, 今井, 御鳴, 山口, 島
田各委員

議 事

1. 連合軍總司令部軍事情報部から "Jap-

anese shipyard technique, particularly
in regard to welding practice" につき
調査依頼あり, 本分科主査及幹事に於て
取纏めることとなつた。

2. 「最も良好と思われる外板ブロック分割及それの接手」等に関し至急横濱造船所に於て取纏め, 清水委員はこの條件に合致せしむるよう草稿提出方申送ることとなつた。

3. 山口委員から前回討議の「熔接の一般注意事項」に関する訂正事項の提出があつたので, 之を再度検討した。

名譽員推薦

昨年12月17日開催の定期評議員會に於て,
前會長井口常雄君を名譽員に推薦しました。

新入會員氏名(九, 十月承認の分)

團體員四級 大阪大學工學部熔接工學教室
准員 川口 忠夫 笠原 祐次 山田 信威
森永 茂 井手 元一

死 亡 會 員

次の二君が逝去されました。謹んで弔意を表
します。

名譽員 藤島 範平君
正員 薄井 周介君

會費納入につきお願い

先般昭和23年度上半期分會費をお納め願う
よう手配しました。最近出版用紙, 印刷費等の
急騰によりまして會誌の發行にはまことに少な
からざる經費を要しますので, この際漏れなく
至急お納め下さいますようお願いいたします。

講演會等の御通知について

今回日本工學會の斡旋により當協會の講演會等の預告が毎日新聞「學藝だより」欄(第二面小説の末尾)に隨時掲載されることになりましたから御注意下さい。殊に特別講演會等の御案内は一々差上げることが困難な場合がありますので、この欄の記事で御通知に代えることがありますから御了承下さい。なお記事は簡單でありますから、詳細は當協會(電話日本橋(24)1-068)へ御照會願います。

圖書斡旋

圖書斡旋廣告は次の項目に従い記載いたします。省略した項目は特にお申出でがなかつたものであります。

- (1) 圖書名, (2) 編著譯者名, (3) 出版年, 版数, (4) 原版, 翻刻版, (5) 保存状況, A: 新品同様, B: 稍汚損, 多少書込あるもの等, C: 相當汚損, 裝幀破損等, (6) 希望價格, (7) 其他

(今後の新規の斡旋御申込も上記の要領に従い御記載の上精々御利用下さい。なお譲渡申込と譲受申込とが合致いたしましたものは、本欄掲載を止め直接御連絡いたしますから御了承下さい)

譲受希望圖書

扱番號

希望事項

- (受7) (1) J. E. S. (2) 商工省規格統一會
(7) 造船方面に關係あるなるべくくわしい物
(受8) (1) 船舶法規 (2) 生島莊三 (3) 昭13
(受9) (1) Practical Shipbuilding
(2) C. Holms
(4) 原版(謄寫刷の附圖のみでも可)
(受10) (1) The Strength of Ships (2) J. B. Thomas
(受11) (1) Design and Cost Estimating of all Types of Merchant and Pass-

enger Ships (2) Alexander Kari
(3) 1938年 (6) 譲渡者希望價格

(受12) (1) 攻訂増補工學便覽 (2) 佐世保海軍工廠

(受13) (1) The Speed and Power of Ships
(2) D. W. Taylor (3) 改訂版 (4) 翻刻版(なるべく縮小版を望む) (6) 譲渡者希望價格

(受14) (1) 「漁船」バックナンバー (2) 漁船協會

(受15) (1) 油輪船 (2) 森川重雄 (3) 昭10

(受16) (1) 船の線圖を描く順序 (2) 野村省吾 (3) 昭4

(受17) (1) 木造船と其の鐵裝 (2) 橋本徳壽
(3) 昭15

(受18) (1) 萬有科學大系船舶篇 (6) 400圓以下

(受19) (1) Strength of Materials, Part II
(Advanced Theory and Problem)
(2) Timoshenko (6) 250圓以下

(受20) (1) Theoretical Naval Architecture
(2) E. L. Attwood (6) 200圓以下

(受21) (1) Treatise on Photoelasticity (2) Coker and Tylon

(受22) (1) 船型學(上)抵抗篇附圖表共 (2) 山縣昌夫

(受23) (1) 基本造船學 (7) 下卷のみを求む

譲受圖書

(渡1) (1) 船體強弱學 (2) 太田友彌 (3) 昭16, 3版 (5) A.

(渡2) (1) 船用機關工學 (2) 小林俊次郎 (3) 昭12 (5) A.

(渡3) (1) プラントル、ティージェンヌ航空流體力學(合本) (2) 松川昌藏, 糸川英夫, 宮崎洋 (3) 昭19, 7版 (5) A (6) 250圓

(渡4) (1) Structural Design of Warships
(2) William Hovgaard (3) 1940年改2版 (4) 翻刻版 (5) A (6) 200圓

(渡5) (1) Mathematical Theory of Elasti-

- city (2) Love (3) 3 版 (4) 原版 (6) 750 圓
- (渡 6) (1) Stability of Ships (2) Reed (6) 450 圓
- (渡 7) (1) 内燃機船要目表 (2) 造船協會 (3) 昭 11 (5) A (6) 200 圓
- (渡 8) (1) 造船協會々報(初號より全部) (2) 造船協會 (5) 大體 A, 古い分 B.
- (渡 9) (1) 造船協會々報 (62號-68號)
- (渡 10) (1) 造船協會々報(68號-71號) (5) B.
- (渡 11) (1) 造船協會雜誌(初號より全部) (2) 造船協會 (5) 大體 A, 古い分 B.
- (渡 12) (1) 造船協會雜誌 (184號-237號) (188, 206, 229, 233, 234 號缺)
- (渡 13) (1) 造船協會雜誌 (226號-259號) (243, 245, 251 號缺)

日本工學會創立七十年記念
第五回工學會大會豫告

本年は昭和二年以來四年に一回開いてをりま
した工學會大會の年に當り、また日本工學會創
立以來七十年になりますので、その記念の意味
も含めて次の要領で第五回工學會大會を開催し

我が造船協會もこれに参加致します。なお諸般
の事情に鑑み從來の形式による連合講演會を催
すことは困難と考えられますので社員學協會の
代表講演の形に依り、我が工學界の展望を試み
ることに致しました。

第一日 五月八日(土)

1. 記念式 午後一時より 東京大學法學
部第 25 番教室

次 第 社團法人日本工學會理事長式
辭來賓祝辭
特別講演 (G. H. Q. に交渉中)

2. 茶 會 午後三時半 東京大學山上御
殿

(茶會出席御希望の向は會費100圓
を添え所屬協會へお申込のこと)

第二日 五月九日(日)

1. 講演會 午前九時—午後三時

第一會場 東京大學法學部第25番教室

第二會場 同 第22番教室

社員學協會代表講演

2. 映画會 午後三時半 東京大學法學部
第25番教室

科學映画・數篇

月 島 機 械

皆様ヲ御満足サセル優秀ナ化學機械及裝置ハ一朝ニシテ出來ルモノデ
ハアリマセン。多年ノ經驗ト絶ヘザル技術ノ改良トガ必要デス。平和
新日本ノ化學工業ニハ四十年ノ歴史ヲ持ち最新ノデザインヲ揃ヘテ居
ル月島ノ裝置ヲ御備ヘ下サイ。

食鹽製造裝置・アルコール・合成酒製造裝置・鑄山機械・硫安製造裝置・セメント製造裝置・砂糖製造裝置・葡萄
糖・水飴製造裝置・工業藥品製造裝置・人絹製造裝置・ソーダ製造裝置・冷凍製氷用製造裝置・其他一般化學機械

月島機械株式會社

東京都中央區京橋月島通り五丁目九番地
電話 京橋 (56) 代表 8301~6

冷 凍 機

製氷・冷蔵・冷凍裝置

設計・製作・工事請負



株 式 會 社

東 京 衡 機 製 造 所

本 社 東京都中央區日本橋江戸橋一の二三
神戸銀行ビル三階電話日本橋(24)2178-9
營業所 東京都中央區木挽町三ノ二

能 美 式 (船舶安全法規定)
SMOKE DETECTOR

CO₂ 瓦斯消火装置・空気が式自動火災警報装置・其他警報消火器機一般

——設計・製作・工事・保全——

能美防災工業株式會社

營業所 東京都中央區銀座一ノ六(皆川ビル) 電話京橋 (56)2552

工場 東京都北多摩郡三鷹半禮五八八 電話武蔵野 2558・3415



熱電式 型式 600
自動温度調節計

調節範囲
0~600°C
0~1,000°C
0~160J°C

株式會社 **千野製作所**
東京都板橋區板橋町3の78 電話(96)285

トンボ印石綿製品
電解用石綿布
一般石綿紡績製品
石綿制動帶摩擦板
アスベストジョイントシート
各種 保 溫 材
保溫工事設計施工

日本アスベスト
株式會社

本社 東京都中央區銀座西六ノ三
業務部 電話銀座一二一五・二九九三
工作部 電話銀座四九九三・四九九八
支店 大阪府福地町下福地五ノ一八
電話此花二八三〇・二八七九
出張所 名古屋・福岡

專賣特許實用新案
T.K 超遠心噴霧乾燥装置
特長 流狀物粉化・流狀物濃縮
其の他の製品

超遠心液體清淨機・遠心油分離機
超遠心牛乳分離機・超遠心酵母分離機
壓力油濾過機

株式會社 **大行社化機製作所**
東京・大田區大森9ノ4822 電話大森(06)1225・2215
2989・3306

株式會社 **宇野澤組鐵工所**
——主要製品——

汽 動 唧 筒 渦 卷 唧 筒
暖 房 用 唧 筒 タービン 唧 筒
眞 空 唧 筒 氣 體 壓 縮 機

本社及澁谷工場 東京都澁谷區山下町六二番地
玉川工場 東京都大田區矢口町九四五番地

冷凍及空氣調整裝置 設計施行

株式會社
組 榮 恭 組

東京郡大田區調布嶺三丁目四ノ三 營業所 東京都中央區銀座五ノ四日本貿易振興會内
電話 田園調布 (02) 4189番 電話銀座(5)5255 1852 出張所 盛岡 鹽釜

N.K. タンマン電氣爐 新式改良型

最高溫度 2300°C 常用溫度 2000°C
タングステン・モリブデン白金其ノ他稀有
金屬熔解 分析研究用
溫度上昇敏速 2000°C 迄上昇ニ達スル時間 30分〔操作簡單・故障及ビ危險ナシ〕

日本化工器製作所 東京都澁谷區代々木西原町九七五
電話 淀橋 745

鑛山機械並 化學工業用諸機械

設計・製作

(最古ノ歴史・最新ノ技術)

株式會社

大塚工場

東京都港區芝三田豊岡町六六
電話三田(45)1161-4

暖房用バルブ・トラップ一式・減壓弁・溫度調節弁
安全弁・伸縮接手等

“INSTRUMENTS FOR HEATING EQUIPMENTS”

Radiator Valves, Traps, Reducing Valves Temperature
Regulators Relief Valves, Expansion Joints, etc.

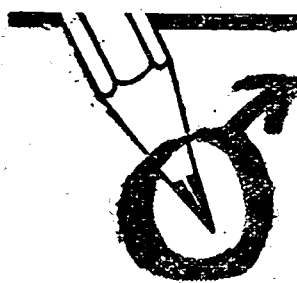
株式會社

フシマン製作所

東京都大田區森ヶ崎町五五〇一
電話大森(06)1507・1508・3282

Fushiman Works, Co.Ltd.

5501 Morigasaki-machi Ota-ku Tokyo-to Tels. Omori (06) 1507・1508・3282



此の中に特許がかかれてゐる

芯の中に含まれた特許化合物の働きで

- (1) なめらかに濃く紙に附着する
- (2) 烏口で引き直さなくともそのまま青寫眞の原圖になる

特許第 111938 號

三菱鉛筆

ダイカスト月産能力

1,000,000 個

愛知ダイカスト工業株式會社

東京都千代田區丸ノ内三菱仲三號館四號
電話丸ノ内(23)873-4・1949-2456・3878
工場 名古屋・大府

一般化學機械並
高水壓ポンプ・プレス
空氣壓縮器・遠心分離機

株式會社

名機製作所

東京都千代田區丸ノ内三菱仲三號館四號
電話丸ノ内(23)873-4・1949-2456・3898
工場 名古屋・大府

營業種目

銅合金熔解電氣爐・輕合金熔解電氣爐・焼入・焼鈍電氣爐
變壓器・抵抗器・自動溫度調節器・乾燥器他各種電氣爐設計製作

山崎電機製作所

營業所 東京都豊島區池袋二ノ一〇六〇
電話大塚(86)1576
工場 東京都板橋區志村前野町一一八〇

本誌上への廣告は 取扱社 共榮通信社へ 假事務所 東京都品川區西品川四ノ九三二

昭和23年3月20日印刷
昭和23年3月25日發行

東京都世田谷區代田二丁目七八四番地
發行所 大田區丸ノ内
印刷所 大同印刷株式會社
俱樂部部内
東京都千代田區丸ノ内
發行所 造船協會
東京都千代田區丸ノ内
發行所 造船協會

(發行代行所 日本出版協同株式會社)